



潟上の偉人「石川理紀之助」が結んだ縁

# 山田町と潟上市の中学生が 絆を深めた交流

1月9日から11日、秋田県潟上市<sup>かたがみ</sup>の中学生を山田町に受け入れ、山田中と潟上市内3中学校の生徒同士が交流を行いました。およそ120年前、潟上市出身で、秋田県の農業の普及と技術の向上に功績のあった石川理紀之助<sup>りきのみすけ</sup>が、山田町で農業指導に当たったことが縁で平成22年、交流がスタート。今回は交流の目的やその様子をご紹介します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174



# 山田町と潟上市を結んだ縁

## 谷頭村の農民教育に奮闘した石川理紀之助

明治時代の中頃、荒れた土地だった谷頭村（現：山田町谷頭地区）。ここに、関之尾滝から水を引き、農民らが米を作って豊かに生活できるようにと奔走した「坂元源兵衛」と「前田正名」がいました。2人は、困難を克服しながら、全長13・7キロにも及ぶ「前田用水路」を完成させました。しかし、用水路が完成しても、農民らは米作りの知識がなく、悩んだ正名翁は、尊敬する友人で、秋田の農業指導者「石川理紀之助」に村の救済を求めました。

石川理紀之助  
(潟上市教育委員会提供)

農民らのために夜学会を開催。読み書きのほかにも、そろばんや礼儀作法なども教えました。誠心誠意、農民らと向き合い、わずか6カ月という短い期間で、農民らの知識や営農意欲を高めることに成功し、現在の豊かな谷頭の礎を築きました。

## 1冊の絵本と市民劇団

理紀之助翁が谷頭を変えた逸話を多くの人たちに知ってもらおうと、瀬之口ヤス子さん（山田町山田）が一念発起。平成21年、絵本「秋田からの爽風」を制作しました。そして、その絵本を読んだ岩邊八郎さん（山田町山田）が、理紀之助翁と正名翁、源兵衛翁らの苦労や功績に触れ、3人の偉人らの物語を若い世代へ伝えようと平成23年、「山田のかかし笑劇団」を立ち上げました。

岩邊代表と瀬之口さんの思いに共感した地域の人たちが集まった市民劇団は、現在、日々稽古を重ねながら、谷頭の礎を築いた3人の物語の劇を、市内の小・中学校や福祉施設などで上演しています。

## 地域から学校へ形を変えて広がる交流の輪

市内での伝承活動のほか、劇団が力を入れているもう一つの取り組みが、潟上市との地域間交流。平成22年、瀬之口さん制作の絵本を秋田県立農業科学館に寄贈したことがきっかけでした。絵本が地元新聞に取り上げられ、秋田県民のほか、理紀之助翁を顕彰する団体などから絵本の問い合わせが相次ぎました。このことがきっかけで、潟上市との交流が

スタート。平成23年の新燃岳噴火の際には、秋田の企業など109団体・228人から義援金も寄せられました。

そして、平成26年。劇団が潟上市を訪問し、理紀之助翁を顕彰する資料館の見学や墓参りを行った後に、市立羽城中学校を訪れました。そこで、吹奏楽部が、劇団のテーマ曲「秋田からの爽風」を演奏。劇団員は、思いがけないもてなしを受け、感動のあまり涙を浮かべたといえます。

劇団が窓口となって民間レベルの地域間交流が始まり、徐々に広がっていった交流の輪。現在では、山田町と潟上市の学校間交流に発展し、絆が深まっています。



## インタビュー



絵本「秋田からの爽風」作者  
山田のかかし笑劇団事務局

瀬之口 ヤス子さん

読み聞かせボランティアをしていた私は、山田町の歴史や

方言など故郷の素晴らしさを子どもたちに伝えようと、山田町を舞台にした絵本を自主制作。4作目が「秋田からの爽風」でした。

史実調査も含め制作に1年ほどかかりましたが、さまざまな人の協力で発行できました。劇団の活動も無償ですが、理紀之助翁の教えやボランティア精神を広めたいとの思いを団員みんなで共有しながら、活動を続けています。

私たちが伝えたい3人の偉人らの「教え」。今後は、若い世代も巻き込んで、この伝承活動をつないでいきたいです。



# 地域を見つめ、学びを深める

## 交流事業の目的

山田町と潟上市の学校間交流は、両地域の小・中学生の相互交流を図ることで、自身の住む地域を見つめ、郷土愛を育むことを目的としています。また、地域での「自身の役割」を考え、暮らしやすい地域づくりや住民相互の信頼関係を考えるきっかけ作りとしています。

平成26年度から始まった学校間交流は、現在まで、テレビ会議での交流のほか、9回の相互訪問を実施。平成30年度は、山田中の生徒と関係者らが潟上市を訪れ、地元中学校の生徒や地域の人たちとの交流を行いました。

## 今回の交流

1月9日・10日、潟上市内中学校3校の生徒と教員の訪問団14人が山田町を訪れました。

交流1日目、本市に到着した訪問団は、都城島津邸や市立図書館などを見学。その後、山田総合福祉センター（けねじゅ苑）で、歓迎セレモニーと夕食会が開催されました。

セレモニーでは、山田のかかし笑劇団が偉人らの物語を上演。潟上市の生徒らは、真剣なまなざしで見入っていました。その後、山田中学生オリジナルのレクリエーションで、生徒同士の交流を深めていました。

夕食会は、地元ボランティアによる手作り料理で歓迎。心の込められたカリーのほか、がねや鶏の炭火焼きなど都城の郷土料理に、生徒らは舌鼓を打っていました。

交流2日目、山田中で交流会が開

催され、吹奏楽部による「秋田からの爽風」の演奏で訪問団を歓迎しました。会では、山田中と潟上市内3校の学校紹介を行いました。

2日目の午後は、理紀之助翁ゆかりの地を訪問。訪問団は、夜学生子孫の竹森和昭さん宅（山田町中霧島）で資料を見ながら理紀之助翁の話を聞いたり、しまうつりの碑や理紀之助翁像、関之尾滝や前田用水路などを見学したりして、学びを深めました。



## インタビュー



潟上市教育委員会  
学校教育課 指導主事

伊藤 昌人さん

潟上市では、愛郷心の醸成や地域社会の人材育成の取り組みの一環として、交流事業を実施。生徒の相互派遣を行っています。

4年前に生徒を派遣したときは、山田中の無言清掃の取り組みに感化され、派遣後、生徒が自主的に取り入れるなど、とても良い結果につながりました。

本市の中学生は、農業の神様である「石川理紀之助」について、地域学習で学びます。今回、生徒らは、多くの人たちから話を聞くことができ、机上の人物だった理紀之助翁が山田町で深く尊敬されていることを、肌で感じる事ができました。私自身も誇りに思う理紀之助翁の「縁」で結ばれたこの交流が、今後も続くことを願っています。

## 〔交流を終えて〕



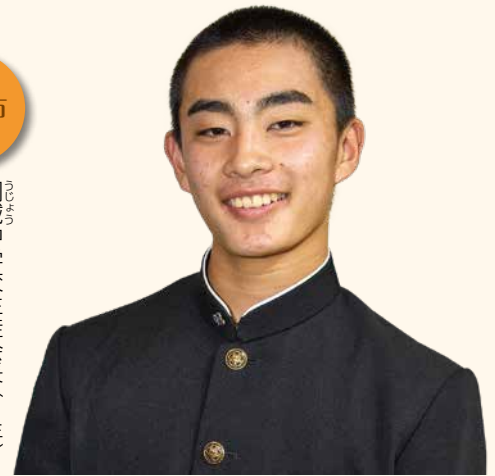
山田町

西川 駿太郎さん  
山田中学校生徒会長(2年)

昨年度に、生徒会の先輩らが潟上市を訪問した際、現地で手厚いおもてなしを受けたと聞き、今回は、私たちがしっかりとおもてなしをする番だと思いました。

すぐに打ち解けられるよう、1日目のレクリエーションの内容などを試行錯誤。その結果、潟上市の生徒らが積極的に話し掛けてくれ、すぐに打ち解けられました。2日目の史跡見学では、ガイドを担当。夏から理紀之助翁の勉強会に参加し、しっかり説明できるように準備を重ねました。そして、難しい言葉は避け、同年代でも分かりやすい言葉遣いに置き換えるなどの工夫をしました。

今回の交流を振り返ると、相手の立場に立った「おもてなしの心」を身に付けることができ、とても成長できたと思います。



潟上市

永井 大生さん  
羽城中学校生徒会長(2年)

交流前の理紀之助翁のイメージは、「授業で習ったことのある地域の偉人」という漠然としたものでした。しかし、今回の交流を通して、山田町の皆さんに今も愛され、尊敬されていることを実感し、理紀之助翁への見方が大きく変わりました。また、山田中と潟上市内3校の取り組みを紹介し合いましたが、とても勉強になりました。山田中の生徒の自主性が高く、全校であいさつ運動に取り組んでいて、羽城中でも取り入れたと思います。

今回の山田町での交流は、多くの人から手厚い歓迎を受け、とてもうれしかったです。また、都城を知ることができたほか、私たちのふるさと「潟上市」を見つめ直すことができました。とても学びの深いものになりました。

